令和６年度　基本評価調書	所管部局	教育庁	所管課	高校教育課

施策名	キャリア教育の充実	施策コード	1106
政策の柱	教育・学び	政策体系コード	2(2)B
関連重点戦略計画等	北海道創生総合戦略、知事の基本政策	事務事業数	6
特定分野別計画	北海道教育推進計画、北海道総合教育大綱		
SDGs		総合判定	概ね順調

予算額（千円）	R6	182,998千円	R5	63,625千円	R4	75,013千円

施策目標	児童生徒の社会的・職業的自立に向け、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくため、産業構造の変化、情報技術やグローバル化の進展等、社会の急激な変化に対応できる資質・能力を身に付けることができるよう、関係機関と一体となって教育活動全体を通した組織的かつ計画的なキャリア教育の充実を図る。
現状と課題	（キャリア教育の推進） ・社会的・職業的自立に向け、児童生徒のキャリア発達への支援の充実が求められている状況であるほか、高等学校では進路の目標が定まらないまま卒業する生徒が一定程度存在しているため、組織的・計画的なキャリア教育が必要である。 （産業人材の育成） ・とりわけ、産業構造の変化やグローバル化等、社会の急激な変化に対応できる資質・能力を身に付けた人材を育成する産業教育の視点から、地域の課題解決に主体的に取り組むなど、学校と産業界が連携し、教育課程の改善・充実を図りながら、産業人材に求められる資質・能力を育成するキャリア教育の深化を図る必要がある。

〈主な取組〉

今年度の取組	（キャリア教育の推進） ・インターンシップの好事例をまとめたリーフレットを活用した指導助言を行うとともに、長期の就業体験活動や、大学や裁判所、研究施設等の専門機関での就学体験活動（アカデミック・インターンシップ）を推進 ・各教育局に配置している生徒の就業意識の向上や就職情報の提供などの就職対策を行うキャリアプランニングスーパーバイザーに対し、オンライン研修の内容の充実を図り、就職問題に対応した指導の充実を推進 ・就職指導における効果的な事例や「就職指導の改善に関する研究」の成果を普及・啓発 （産業人材の育成） ・マイスター・ハイスクール事業で構築した職業人材育成システムを、他の専門高校等に横展開し、マネジメント及びコーディネート機能を強化した教育活動を推進 ・食の魅力発信拠点の強化・拡大に向け、高校生が企業等と連携して開発した商品をどさんこプラザで販売する活動を実施し、社会の形成に主体的に参画しようとする力を育成する学習活動を促進
実績と成果	（キャリア教育の推進） ・キャリアプランニングスーパーバイザー対象の研修会（R5.8、R5.10、R6.6）を開催し、高校生の就職状況や就職指導の在り方に関する情報交換、協議等を通じて、キャリア教育の一層の充実を図った。（参加者：14名） ・キャリアプランニングスーパーバイザーを講師として、就職内定者向けのサポートセミナー（R6.1）を開催し、社会人としての心構えやコミュニケーションスキル等について理解を深める取組を行った。（参加者：262名） ・効果的な就業体験活動の事例などを紹介したリーフレット（R6.1）を発行し、長期のインターンシップや、デュアルシステムの実施について啓発した。 ・インターンシップに加え、地元企業との懇談会や見学会など、職業理解の効果的な取組をまとめた「就職指導実践事例集」を作成して全ての公立高校に配付し、就業意識の高揚を図った。（R6.4） ・高校の進路指導担当教員等が参加する会議（R6.4）を開催し、インターンシップの事例報告や協議等により、地域、学校の実態に応じた進路指導の充実を図った。（参加者：256名） （産業人材の育成） ・職業人材育成システムの構築に向けて、マイスター・ハイスクール事業の第1回運営委員会（R6.6月）を開催し、今年度の事業計画を決定した。（実施校：1校） ・産業界と専門高校の持続可能な連携体制を強化するマイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」において、本事業について理解を深める「キックオフミーティング」（R6.7）を開催した。（参加者：86名） ・道立高校が地域との協働で開発した商品をどさんこプラザにおいて販売し（R5.10、R5.12）、高校生が多くの人との交流を図り、北海道の魅力発信の強化を図った。（参加：11校）

参考HP①	産業教育・キャリア教育	https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/a0006/
参考HP②		
参考HP③		

令和6年度 基本評価調書	【2(2)B_1106】キャリア教育の充実

〈**指標分析**〉 ⇒成果指標は、原則、取組項目ごとに1つ以上、全体で5つ以下とする

指標名①	増加	%	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R14)	達成率	指標判定
キャリア教育に資する体験的な学習活動の実施率		目標値	89.8	51.8	59.1	100.0	98.1%	B
		実績値	44.6	42.7	58.0			

設定理由	計画的な就業体験を促すキャリア教育の成果を測る指標であり、長期の就業体験やアカデミック・インターンシップの推進など、勤労観・職業観の育成に関する取組の成果を測る指標として設定		
指標公表時期	毎年調査、調査年の翌年4月頃公表	出典(根拠計画等)	インターンシップ実施状況等調査

分析(主な取組と成果)

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、実施率が高まり、目標値に近い値となっている。今後も、事例集やリーフレット、研修会等により、啓発活動を進めていくことが重要である。

指標名②			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					−	−
		実績値						

設定理由			
指標公表時期		出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

指標名③			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					−	−
		実績値						

設定理由			
指標公表時期		出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

指標名④			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					−	−
		実績値						

設定理由			
指標公表時期		出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

指標名⑤			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					−	−
		実績値						

設定理由			
指標公表時期		出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

令和6年度 基本評価調書	【2(2)B_1106】キャリア教育の充実

〈取組分析（連携状況、緊急性・優先性）〉

連携状況	(課題) ・地域を担う人材を育成するには、高校生の地域の産業への理解や就業意識の向上を図る必要があるため、学校と地域の産業界が連携したキャリア教育を推進する必要がある。 (取組と成果) ・高校においては、企業等におけるインターンシップに加え、企業の担当者による職業講話、進路相談会、面接練習、現場見学会などに取り組むなど、地域の企業等と連携・協働したキャリア教育を実施しており、その成果として、高校卒業の時点において、進路希望を設定できていない生徒数は減少傾向にある。(R2:33名、R3:31名、R4:27名)
緊急性 優先性	(課題) ・本道においては、次世代半導体製造拠点の立地や洋上風力発電の導入、農業や水産業のスマート化など、産業構造が大きく変化している中、産業界と専門高校をつなぎ、先進的な取組を学べる持続可能な連携体制の強化が求められている。 (取組と成果) ・「マイスター・ハイスクール普及促進事業」を活用した「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」において、静内農業高校が令和5年度までに構築した職業人材育成システムを、拠点校として他の専門高校に普及及び横展開するほか、高校教育課に「産学連携コーディネーター」を配置し、専門高校の生徒が、先進的な取組を学べる持続可能な連携体制の構築に資する資料を作成する予定。7月には専門高校の教員を対象にしたキックオフミーティングを実施。86名が参加し、今後の取組の方向性について全体で共有した。

〈その他統計数値等〉

その他統計数値等①	過年度①	過年度②	最新年度
高校卒業の時点において、進路希望を設定できていない生徒数	33人(R2年度)	31人(R3年度)	27人(R4年度)

「施策目標」「現状と課題」に関する状況	
(課題) 進路目標が定まらないまま高校を卒業する生徒が存在することや、就職後3年以内に離職する割合が全国に比べて高い状況にあることから、職業意識を向上させるための就職指導の改善・充実を図る必要がある。	
(状況) 本指標は減少傾向にあるが、北海道労働局が公表する就職後3年以内に離職する割合が、全国に比べて高い状況(北海道:43.9%、全国:37.0%)にあるため、引き続き、就職内定者向けのサポートセミナーなどの取組を充実させる必要がある。	a

その他統計数値等②	過年度①	過年度②	最新年度

「施策目標」「現状と課題」に関する状況	
(課題)	
(状況)	

その他統計数値等③	過年度①	過年度②	最新年度

「施策目標」「現状と課題」に関する状況	
(課題)	
(状況)	

令和6年度 基本評価調書	【2(2)B_1106】キャリア教育の充実

〈総合判定〉

指標判定	B	連携状況	○	総合判定	概ね順調
		緊急性・優先性	○		
		その他統計数値等	a		

※ 成果指標の指標判定が「D」の指標

（該当なし）

	対応方針番号	内容
翌年度に向けた対応方針	①	・インターンシップを経験した生徒の割合は、新型コロナウイルスが5類感染症に移行した後、上昇したものの目標値には達していないので、今後のインターンシップの充実に向けて、企業と学校の双方にとって有益な連携を図るため、引き続き、経済団体への協力要請や、企業に対し、インターンシップの好事例を紹介しながら理解と協力を求める取組を行う。
	②	・令和6年度から取り組んでいる「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」において、産業界と専門高校の持続可能な連携体制を強化していくなかで、生徒の職業理解や職業意識の向上を深めていく。
	③	

〈二次政策評価〉

二次政策評価	

〈ＡＣＴＩＯＮ〉

二次政策評価への対応		
翌年度施策の方向性	対応方針番号	方向性
	①	インターンシップ等の充実に向け、先端技術を活用した仕事や、労働環境の変化に伴う新たな働き方を体験できる学習活動を推進するとともに、地域企業等での受入れや業種の拡大に努め、好事例を紹介するなどし、学校や経済団体等に対して普及・啓発を行う。
	②	専門高校や産業界を対象としたイベント等を通じて、人的ネットワークを強化するほか、中高生や教員が新たな産業構造や専門高校の価値・魅力を理解する機会を創出し、地域の担い手となる人材育成を推進する。
	③	

令和６年度　事務事業評価調書	施策名	キャリア教育の充実	施策コード	1106

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局室名	前年度からの繰越事業費(千円)	事業費(千円)	うち一般財源	執行体制 本庁	出先機関	人工計	フルコスト(千円)	一次政策評価 対応方針番号	方向性	二次政策評価意見	ACTION 結果への対応(令和6年度) 次年度方向性	二次評価意見への対応状況
0774		事務	進路指導に関すること	大学入学者選抜実施要綱及び大学入試センター試験実施大綱の通知	高校教育課		0	0	0.2	0.7	0.9	7,209					
0775		事務	進路指導に関すること	就職内定、体験入学等各種調査資料の作成・指導・助言等。進路関係会議の企画・運営	高校教育課		0	0	0.4	1.5	1.9	15,219					
0776		一般	新規学卒者就職対策推進費	・高校生のインターンシップの推進 ・新規学卒者の求人確保のための職場訪問旅費 ・キャリアプランニングスーパーバイザーの配置	高校教育課		55,125	41,870	0.2	1.1	1.3	65,538	①	改善(取組分析)		改善	
0784		事務	高校生対流促進事業費	高校生の地域留学を促進するため、高校と地域が連携し、魅力的な高校づくりを推進する	高校教育課		0	0	0.2	0.0	0.2	1,602					
0440		一般	地学協働まちづくり推進事業費	地学協働コーディネーターの配置により、地域と学校がともに学ぶ取組をとおして、地域と学校が連携・協働する体制を構築し、持続可能なまちづくりに資する本道の未来を創る人材の育成	社会教育課		19,574	13,587	1.5	2.0	3.5	47,609					
0758	1101	一般	学校教育調査研究事業費	文科省の委託や示達による、学校教育に関する調査研究事業(中等教育学校の改善に関すること、科学の甲子園(ジュニア)の開催、教育課程、確かな学力の育成、小・中学校理科教育ステップUP！プラン事業、観察・実験アシスタント(PASEO)、小・中連携)等の実施	義務教育課外		108,299	0	4.0	11.5	15.5	232,454	②	改善(取組分析)		改善	
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
											0.0	0					
計						0	182,998	55,457	6.5	16.8	23.3						